



はつらつ通信

●発行 医療法人社協会 札幌ライラック病院
●編集 はつらつ通信局

Vol. 143
2017.7.1



アートのある病院

他になかった試みを当院で実現

地域ではお馴染みとなった札幌ライラック病院の「びょういんあーとぶろじえくと」。実施しているのは、美術家の日野間尋子さんを中心とする「びょういんあーとぶろじえくと」スタッフの皆さんです。

初回は2008年秋でした。長く臨床美術に取り組み、欧米のようにアートの力を病院でも生かしたいと考えていた日野間さんは、当院職員との縁から「病院でアート」の第一歩を当院で実現。前年に訪問リハ事業や人工呼吸器装着の患者さまの受け入れ病棟を稼働し、機能を大きく変化させていた当院も、患者さまのお役に立てる新しい試みを歓迎しました。

当時の医療機関は絵画や彫刻作品の常設程度で企画展はまれでしたが、現在はアートによる癒しへの関心が高まり、病院とアートの距離は少しずつ縮まっています。その先駆けとなれたことは、当院の大きな誇りであり、喜びでもあります。

さらに注目度を増して今年も開催

「びょういんあーとぶろじえくと」は今年で10年目に入ります。近年は毎年複数のマスコミ取材が入り、存在を知る方も増えました。第12回目は「光の天使」と出会う」と題して、5月1日(月)～7月31日(月)の会期で開催。紙で作った花や蝶が散りばめられた待合ロビーはお花畑に変身し、訪れる人たちの心に安らぎとぬくもりを届けます。

今号では、メディアによる当院での取材の様子を伝え、「びょういんあーとぶろじえくと」のこれまでの振り返ります。



NHKの取材の様子



個性豊かな作品が、こころを癒し、人と人を結ぶ 病院でアート、広がる共感の輪



- 「びょういんあーとぶろじえくと」のあゆみ**
当院にまかれたホスピタルアートのたねが、芽を出し、すくすく育っています。
- 第1回** 2008年10月13日(月)～10月25日(土) 「映しあう／照らしあう」2008秋
北の峯学園の利用者さんの作品を展示。「びょういんあーとぶろじえくと」の名称はまだありませんでした。
 - 第2回** 2009年5月18日(月)～7月4日(土) 春:「咲く／かがやく」
夏:「はしる／溢れる」
好評を受けた春夏の連続企画。初回と同じ作家の作品で、「びょういんあーとぶろじえくと」が始動。
 - 第3回** 2010年7月20日(火)～12月28日(火) 「キラキラ・ぐるぐる」
「ふらの北の峯学園便り」を副題に四季を表現。カンテレやトランペットのロビーコンサートも実施。
 - 第4回** 2011年12月19日(月)～2012年3月31日(土) 「明日は晴れ」
展示したさまざまな風と星型オブジェの制作者はおよそ100名。デイクアではカンテレ演奏会を実施。
 - 第5回** 2013年4月1日(月)～8月31日(土) 「庭で耳を澄まして」
日野間さん、カリヤスマミコさん、上嶋秀俊さんの作家3人の作品を展示。市内で関連企画講演も実施。
 - 第6回** 2013年9月17日(火)～12月27日(金) 「毎日の生活を織るアート:キルト」
作品の撤去後さびしくなるロビーのために、長年キルト制作に取り組む川野エレンさんの初キルト展を企画。
 - 第7回** 2014年9月1日(月)～2015年3月31日(火) 「silent breath 上嶋秀俊展」
これまでと趣の異なる1作家の展示となった待合ロビーは、作家の息づかいや手のぬくもりを伝える表現空間に。
 - 第8回** 2015年5月20日(水)～10月31日(土) 「まどの向こうに」
道内で活躍中の新進作家、山田恭代美さん、前川アキさんが登場。オープニング企画はピエロのデイクア慰問。
 - 第9回** 2015年12月21日(月)～2016年3月21日(月) 「ひかりの庭」
唐神知江さんのドローイング展の当院と、北の峯学園芸術創作活動展の北海道がんセンターの2カ所で開催。
 - 第10回** 2016年9月5日(月)～12月27日(火) 「光と風と水をまどって」
佐藤隆之さんの切り紙作品など多彩な展示。デイクアではダンス企画も実施。会場は3カ所に増加。
 - 第11回** 2017年5月1日(月)～7月31日(月) (開催中) 「光の天使と出会う」
500輪の花々と500匹の蝶の切り紙作品。デイクアのご利用者さまお手製の花も展示。
- 詳細は「びょういんあーとぶろじえくと」のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.hinoma.com/hospitalart/>



まねお 山本真根夫医師が着任
5月に山本真根夫先生が着任。人工透析治療の黎明期から経験を積まれたベテランクターです。皆さん、よろしくお願ひいたします。昭和28年生まれ。杏林大学医学部卒業後、札幌医科大学医学部第二内科(循環器科、腎臓内科)に入局。帯広厚生病院、道立北見病院、市立根室病院などを経て現職。

- 「びょういんあーとぶろじえくと」参加アーティスト**
- 曾田 千夏 ●栄口 真子 ●瀬川 葉子 ●山田 恭代美
 - 石垣 伯江 ●小川 豊 ●高橋 佳乃子 ●吉田 恭子
 - 石垣 わかな ●小山 めぐみ ●鄭 英姫 ●井上 始子
 - 伊藤 幸子 ●佐藤 綾香 ●中丸 大輔
 - 上嶋 秀俊 ●佐藤 隆之 ●日野間 尋子
 - 上嶋 ミカ ●柴田 紀恵 ●藤山 由香

昨年の第11回展を取り上げたNHK札幌放送局は、今年の第12回展では開催前の準備段階を取材。4月11日(火)、展示に使う花の作品を制作していたデイクアを訪れました。ス



4/11 テレビ取材

スタート当初の「びょういんあーとぶろじえくと」には、病院内でのめずらしい催し物として取材依頼が無いままに近頃は問い合わせや取材が入って告知が掲載されるようになりまし。何度も足を運ぶ方も少なくなく、認知度の高まりから「びょういんあーとぶろじえくと」が新しい段階に入ったことがうかがえます。

**メディアに取り上げられ
長期取材も進行中**



5/15 雑誌取材



「O.tone」6月15日発行号に掲載されました。

5月15日(月)は月刊誌「O.tone(オトン)」の取材。「アーティストの」作品をピックアップする連載「創作の庭」にて、「びょういんあーとぶろじえくと」が紹介されました。ライターは、第11回展を観て以来取材機会を待っていたという山内絵里さん。連載のコンセプトを編集部で確認し、第12

タップやご利用者さまから話を聞いたりポスターの藤田華生さんは、「皆さんが笑顔で楽しまれていて、ヘアトによる働きかけ」が実践されていると思ひました」と、感想を聞かせてくれました。



地域連携部の高田麻実MSW

回展の空間そのものをひとつの作品と捉えることで、今回取り上げるこ
とがなかったそうです。

**展示ごとに新鮮な驚き
担当者も毎回期待**

多くの人に知られるようになり、参加希望のアーティストも増え、「びょういんあーとぶろじえくと」の展示内容は多様化しています。

「展示の際にお願いしていることは、落下によるケガの危険がない、消防上の問題がない、公共の場としての認識がある、の3点。できるだけ制約をかけず、芸術家の皆さんの意向に沿いたい」と担当の地域連携部の高田麻実MSW(医療ソーシャルワーカー)。目を凝らすとわかる待合ロビー壁面の多数のクギ跡は、当院の姿勢の証。日野間さんからは「ここからできたことがたくさんあります」と感謝の言葉をいただきました。



医療法人北志会

基本理念
私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、よりよい医療サービス実践のため日々研鑽します。

基本方針

- 一、患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 二、専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 三、職員は、責任と誇りを持ち、日々学習し、専門職としての使命を果たします。
- 四、職種・職域を超えたチーム医療を目指します。

札幌ライラック病院を受診される皆様にご協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝えください。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問してください。
3. 治療やケアの方針を決める時には、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加してください。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さるようお願いいたします。
6. 札幌ライラック病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 札幌ライラック病院では、各階に意見箱を設置しています。ご意見やご希望がありましたら、ご遠慮なくご利用ください。

理学療法士の経験生かして副センター長が講話 地域に出向いて予防リハ

老人クラブと施設で 転倒予防などを指導

当院では、医師や管理栄養士などの職員が講師となつて地域に出向く出前講座を行っています。今春は、理学療法士として活躍してきた佐藤純吾副センター長が着任し、総合支援センターならではのフットワークを生かしてリハビリに関する講話を受けることができますようにになりました。

5月19日(金)は、豊平区老人クラブ連合会が主催する「春の交通安全・健康づくり講習会」で、転倒予防と認知症予防について解説しました。会場から協力者を募り、壇上で評価や検査をして実際の例として提示。歌を歌いながら動くなどの運動も来場者と一緒にいい、わいわいと賑やかな講話となりました。



5月19日の健康づくり講習会にて

6月3日(土)に行われた高齢者施設の内覧会では、催しのひとつとして転倒予防の講話を実施。専門的な質問が相次ぎ、佐藤副センター長の経験が大いに役立ちました。続く7月にも転倒予防と口腔ケアについての講話を予定。着任のあいさつまわりがきっかけになった講話依頼もあり、当院に期待される役割と地域貢献の機会を改めて確認する機会にもなりました。



6月3日の内覧会イベントにて

毎日してほしい運動 続けるコツを伝授

「かみ碎いて、わかりやすく解説し、誰でも簡単に実践できる運動をお伝えするようにしています」と佐藤副センター長。講話では「テレビを観ながらCMの度にこのような運動をしましょう」と、毎日続けてもらうためのコツも伝授し、運動の習慣化を促すよう心がけています。

佐藤副センター長をはじめ、当院専門職の出前講座をご希望される場合は、総合支援センターまでお気軽にお問い合わせください。



佐藤純吾副センター長

札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

内科、消化器内科、整形外科、神経内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、麻酔科、リハビリテーション科

診療時間

平日 9:00~12:30 13:30~17:00

土曜 9:00~12:00 午後休診

※但し急患の方は上記に限らず随時受付いたします。

面会時間 平日 14:00~20:00

土日祝 12:00~20:00

ホームページ <http://www.lilac.or.jp/>



医療法人 北志会

札幌ライラック病院 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号

TEL(011)812-8822

ご予約不要! 糖尿病教室

30分の無料教室。

当日は直接3階大会議室へお越しください。

第49回 7月25日(火)14:00~

「夏場の生活上の注意点」……大谷かおる(看護師)

「運動療法」……菅原 俊(理学療法士)

第50回 8月22日(火)14:00~

「糖尿病と低血糖」本庄恭輔(糖尿病専門医師、院長)

「食事療法」……仲野笑子(管理栄養士)